

阿武郡報

第四十六號

大正六年十二月十九日第三種郵便物認可 (毎月一回二十五日發行)

目次

□ 國勢調査事務打合會	
□ 庶務	
一 町村長集會	五
一 大正九年度前期縣稅納稅狀況	六
一 明木村に於ける區長訓練	七
一 高俣村の衛生施設	九
□ 學事	
一 小學校兒童學力調査	一一
□ 産業	
一 麥作模範田視察狀況	一八
一 甘藷の栽培に就て	二八



國勢調査事務打合會

本年十月一日午前令時を期し全國一齋に施行せらるへき國勢調査は前號所載の如く我國創始の試あると共に最も重大なる事業あるか故に國民一致協力して其の完成を期せざるべからざるは勿論之か施行に當りては前以て調査事務關係者に於て周到なる注意と準備とを要するに依り本月九、十日の兩日町村並町村主任者を郡會議事堂に召集して西村縣書記列席の上關係法規の審議、假想問題に就て申告書の記載方を試むる等國勢調査事務全般に亘り打合會を開催せり當日指示したる事項の其他左の如し

大正九年六月廿四日印刷
大正九年六月廿五日發行

發行所 山口縣阿武郡役所

印刷所 萩 馨海館

イ、國勢調査員ノ人選ニ付テハ慎重ノ注意ヲ拂フヲ要ス、調査ノ趣旨及申告書記入心得等ヲ理解シ得サルカ如キ者又ハ世人ノ誤解ヲ招ク虞アル者等ハ避クルヲ可トス

ロ、小學校教員、青年團幹部員、在郷軍人會幹部員等ニハ國勢調査員トシテ適任者比較的多ナルベシ

ハ、國勢調査員ヨリ陸海軍兩省ヘ交渉アリタル趣ナリ

ニ、社會ノ上流ニ立ツ人士カ篤志ヲ以テ國勢調査員ト爲ルコトハ一般ニ本事業ヲ重カラシムルノ好影響アリト信ス、適當ノ人アラハ成ルヘク之ヲ促シテ調査員タラシメラレタシ

ニ、一般ノ調査員トシテハ警察官ヲ舉ケサルヲ可トス

レトモ水面ノ調査又ハ工事中ノ人夫集團ノ調査等ニハ警察官ヲ用ウル様宜シク斟酌セラレタシ

ホ、國勢調査員希望者多キカ爲又ハ町村ノ折會上必要以上ニ調査員ヲ置カントスルモノナシト云フ能ハス

徴章數ノ制限モアルヲ以テ可成彙ニ報告サレタル徴章數ノ範圍内ニ於テ可然按配セラレタシ

ハ、豫備國勢調査員トシテ町村吏員ヲ充用スルコトハ緩急事ニ應スルノ便多キヲ以テ可成其ノ方面ヨリ採

用セラレタシ

ト、國勢調査員内申ニ付テハ豫メ本人ノ承諾ヲ得事故ナキコトヲ確メ置クヲ要ス

チ、調査員ノ訓練ハ元來町村長ノ任務ナレトモ町村ノ訓練協議會ニハ郡吏員モ臨席指導セシムベシ

リ、町村ノ國勢調査員訓練協議會ハ必要アルトキハ二三町村聯合シテ同時ニ之ヲ行フモ可ナルヘシ

ス、國勢調査ハ自計主義ヲ採ルモ依頼アルトキハ調査員ハ申告書ノ記入ヲ代筆セサルヘカラス而シテ其代筆ハ時宜ニ依リ申告書用紙配付ノ際之ヲ爲シ申告書蒐集ノ時其ノ後ノ異動ヲ聞キ訂正シテ受取ルモ差支ナシ

ル、國勢調査員ハ申告書蒐集ノ際之ガ檢査ヲ嚴密ニナサ、ルベカラズ自己ノ代筆シタルモノト雖亦然リ

三、旅店、料理店等ニ於ケル調査ニ關スル件

イ、參詣者多キ神社佛閣等ノ所在地又ハ停車場附近ノ旅館ニ於テハ旅客輻湊シ且出入頻繁ナルベキカ故ニ往々調査ノ脱漏重複ヲ來タスベキ虞ナキ能ハザルヲ以テ特ニ注意セシメラレタシ

ロ、旅店ハ十月一日午前零時ノ現在者全部ヲ記入申告スルハ勿論申告書記入ノ範圍ハノ前段ニ當ル者アル

▼指示事項

一、國勢調査ノ趣旨普及ニ關スル件

イ、國勢調査ハ國民一致ノ協力ヲ要スルニ依リ先ツ町村ノ吏員及國勢調査員ニ能ク其ノ趣旨ヲ了解セシメ苟クモ過誤ナキ時期スルト共ニ一般公衆ニ對シ極力趣旨ノ宣傳ニ努メラレタシ

國勢調査施行細則第十一條同第十二條等ノ趣旨ヲ明示セラレタキコト

ロ、旅行スル者ハ調査事項ヲ認メタルモノヲ所持シ何處ニテモ申告スルニ差支ナキ様準備シ置クベク注意ノ途ヲ講セラレタシ

ハ、青年團員並小學校兒童等ニ對スル說示方ニ關シテハ彙ニ通牒シ置キタリ今後益之カ勵行ニ努メラレタシ

青年團員、小學校教員等ヲ會同シテ申告書記入方ノ講習ヲナサシムルモ亦適當ノ方法ナルベシ

ニ、町村ニ在リテハ調査ノ時期ニ接近セハ一ヶ所若ハ各大字又ハ各部落ニ於テ特ニ講話會ヲ開催シ調査ノ趣旨及申告書記入心得等ヲ說示スル必要アリ

ホ、臨時國勢調査局ニ於テハ陸軍、海軍、農商務、逓信ノ各省ニ交渉シ在郷軍人會員、鑛業主船主等ニ夫

々援助方ヲ求メラレタル趣ニ付實行上ニ就テハ町村長ヨリモ夫々交渉協議ヲ遂ケラレタシ

ハ、調査ノ趣旨ヲ宣傳周知セシムル爲計畫中ノモノ左ノ如シ

甲 各世帯ニ配付スヘキ一枚刷宣傳書

乙 宣傳用ポスター(ビラ)

丙 講演用申告書雛形

右ノ中甲、乙ハ臨時國勢調査局ニ於テ作製セラレタル見本ニ依リ縣ニ於テ印刷ノ上配付ノ見込ニシテ丙ハ臨時國勢調査局ノ承認ヲ受ケ東京大倉書店ヨリ發賣ス

丁 宣傳用活動寫眞

イ、東京日本フィルム商會教育映畫部ノ申出ニ依リ臨時國勢調査局ニ於テフィルム製作上注意ヲ與ヘタルモノ

全二卷 二、〇〇〇尺 定價金六百圓

賃賃料 二ヶ月契約 送料共金四百五十圓

ロ、東京活動寫眞資料研究會ガ京都府臨時國勢調査部ノ依頼ニ依リ作製シタルモノ

全一卷 一、〇〇〇尺 定價金參百五十圓

二、國勢調査員ニ關スル件

トキハ之ヲモ記入申告セザルベカラズ仍テ九月三十日ニ出發スル旅客アルトキハ十月一日午前零時ナ何所ニテ過オスヤ又明朝午前八時迄ニ何レカノ世帯ニ入ルヤ聞質シ若シハノ前段ニ當ル者ナルトキハ該旅店ニ於テ申告スル旨ヲ旅客ニ告ケ且之ヲ記入申告セシムルコト

ハ、料理店、待合茶屋、貸座敷等ニ對シ九月三十日ノ夜遊客アリタルトキハ成ルヘク宵ノ内ニ歸ヘラシムル様注意ヲ與ヘラレタシ、若シ又遊客ガ十月一日午前零時ニ現在スルトキハ當該料理店、待合茶屋、貸座敷等ニ於テ申告ヲ爲スヘキモノナルコトヲ豫メ告知シ置クコト

(遊客ノ一團ハ之ヲ準世帯トスルコト)

四、鑛山ノ飯場、納屋、工場ノ寄宿舎等ニ於ケル調査ニ關スル件

イ、鑛山ノ飯場又ハ納屋ニシテ鑛業主ノ經營ニ係ルモノアルトキハ之カ調査ニ關シテハ鑛業主ノ助力ヲ求メラレタシ

ロ、鑛山ノ飯場、納屋、工場ノ寄宿舎及多數人ノ集合定住スル準世帯ニ對シテハ豫メ其ノ掛員等ニ注意シ調査事項中生年月日、出生地等ヲ父兄等ニ問合セ置

カシメラレタシ

五、水面ノ調査ニ關スル件

イ、一般水面ノ調査ハ本年三月十九日庶第四六九號通牒參照

ロ、一般水面ニ於テモ陸上ト同シク一調査區ノ調査ハ一人ノ調査員之ヲ擔當セサルヘカラス但シ船舶ノ密集セル港灣ニ在リテハ一調査區毎ニ明確ナル區劃ヲ立ツルコト困難ナル場合モアルヘク此ノ場合ハ二調査區以上ニ相當スル船舶數ヲ以テ一調査區トスルモ差支ナキヲ以テ斯カル調査區ニ於テハ一調査區ニ二人以上ノ調査員ヲ置クコトヲ得

本年三月十九日庶第四六九號通牒中第二、第四ハ此ノ趣旨ナリ誤解ナキ様注意セラレタシ

ハ、水面ノ調査ニ當ラムヘキ國勢調査員ニハ成ルヘク警察官ヲ推薦スルコト

ニ、十月一日頃避難船ノ輻湊スヘキ處アル港灣ニ對シテハ豫メ應急ノ手配ヲ爲シ置カシメラレタシ

ホ、十月一日午前零時後第一著ニ入航スヘキ定期船アル港灣ニ於テハ乘客ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ當該汽船會社又ハ船主ヲシテ適當ノ施設ヲ爲サシメラレタシ

ハ、書類進達期限ハ嚴守セラレタシ

八、地方交付金ニ關スル件

國勢調査費トシテ町村ニ交付スベキ金額ヲ中央ヨリ縣ニ交付セラル、ハ八月上旬頃ノ見込ニ付之ヲ町村ニ交付スルハ其ノ以後トナルベシ可然承知シ置カレタシ

九、其ノ他ノ事項ニ關スル件

昨年九月町村長小學校長聯合集會ノ節指示シタル事項ハ茲ニ重テ指示セザルヲ以テ其ノ際配付セシ印刷物ニ就キ了知ノ上夫々遺漏ナク措置セラレタシ

▲協議事項

一、世帯番號札ニ關スル件

二、記念繪葉書ニ關スル件

庶務

町村長集會

六月十日郡内町村長集會を開催し席上岡村郡長より五月十九日より二週間内務省主催に係はる地方改良講習會に於ける主要事項及其の感想並滯京中視察したる社會狀態に對する感想談あり尙中央報德會主催の全國町村長大會

六、國勢調査申告書記入方ニ關スル件

イ、申告書記入ノ内容不正確ナルトキハ本事業ノ効果ヲ空シクスルヲ以テ町村吏員及國勢調査員ハ豫メ充分之ガ記入方ニ通曉シ置キ進ンデ一般ニ對シ記入方說示ノ途ヲ講ゼラレタシ

ロ、申告事項中職業及職業上ノ地位ノ記載方ニ付テハ特ニ注意ヲ與ヘラレタシ

七、國勢調査書類ノ檢査及進達ニ關スル件

イ、國勢調査申告書類ノ他書類ノ内容檢査ハ事前ニ於ケル趣旨普及ノ施設ト共ニ本事業ノ好果ヲ擧グル上ニ於テ最も重要ナル点ナレバ特ニ注意セラレタシ

ロ、國勢調査書類ノ進達ニ際シテハ其ノ荷造ノ注意充分ナルヲ要ス若シ途中ニ於テ破壊シ一部紛失スルガ如キコトアリテハ容易ナラザル義ニ付豫メ考慮ヲ要ス

町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				
秋	三九、六七〇	九				
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				
町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				
町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				

本郡明木村に於ける大正八年八月村内各區長の下に區長示達なるものを備付け村役場より示達したる文書の整理保存をなすと共に引繼を確實ならしめ或は區長手簿を設けて常に區内の各種統計を調査記入して實情を知悉せしむると同時に兼て統計思想を養成し要求に應じて迅速正

明木村に於ける區長訓練

町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				
町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				

へ出席せる秋枝福賀村長は同會一般狀況より該問題の経過を報告し中原郡農業技手は當時開場中なる秋葉市場の好況なる模様を述べ及生産者の利便を圖るため今後秋葉親會社と保管契約を結びたることなど販賣上の注意を促し次て學事共同視察のため上京せし東部視察より文部省主催に係る「時」の博覽會に關する視察法等あり當日郡長より注意したる事項其の他左の如し

注意事項

一、痘瘡豫防權威に關する件

其の他

一、赤十字社員並愛國婦人會員増募に關する件

大正九年度前期縣稅納稅狀況

本期に於ける縣稅は地租割、營業稅、雜種稅、戶數割等にして滞納者は別表の如く郡内も通じて地租割に十四人營業稅に三十人、雜種稅に四十九人、戶數割に四十四人合計百三十七人にして其の約半數は所在不明其の他止むを得ざるものに屬すと雖も今之を前納期即ち大正八年度後期滞納者九十人に比較するときは本納期は各稅を通じて合計四十七人を増加せり然るに近時郡内に於ける納稅事務は著しく改善せられ當局苦心の大なるものあるを認

町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				
町村名	種	計	種	計	種	計
秋	三九、六七〇	九	二一、九五〇	一九	二一	三〇
椿郷東分	五、八五〇	三				
篠生	四、四二〇	二				
吉部	二、二七〇	一				
福川	一、五〇〇	一				
紫福	二、二七〇	一				
須佐	三〇〇	一				
小川	三、〇〇〇	一				
計	五九、二八〇	一九				

確なる報告を爲さしむる等區長の訓練に留意する所あり而して兩者共に備付の要旨及取扱方を其の巻頭に録して執務に便ならしむ其の要領左の如くにして郡内最初の施設たり

▼示達録に就て

備付要旨

區長集會の際交付せられたる協議書類及村長或は役場名を以て郵便又は使丁にて送達せられたる書類の紛亂を防ぐ爲本示達録の備付を爲す

取扱

- 一、受領したる書類の處理を了したる後は追次本録に綴り込み其の保管を確實にすべし
- 二、區長より發送したる書類にして將來參考の爲必要あるものは其の控を本録に綴り込み置くべし
- 三、本示達録は區長退職の際之を後任者へ引繼を爲すべし

▼區長手簿に就て

備付要旨

區長は村長の補助役たることは町村制第八十一條の命する所なり故に其の區内の人口戸數及區長の所有する土地並生産の數量等を常に調査知悉し村長の要求に應

じ速に正確なる報告を爲し得る爲本手簿を設くる所以なり

取扱

- 一、區長は常に區内の人口戸數田畑宅地山林等の反別及區内の生産に付本手簿に要求する事項を調査し置くものとす
- 二、本手簿調査事項は各戸に付調査し之を積算して區内に於ける實際の數量を掲ぐることを努むべし
- 三、本手簿調査事項は毎年一月晝日迄に終了すべし
- 四、區長退職の場合には後任者に本手簿の引繼を爲し懇切に説明を加へ本調査に滞滯なからしむべし
- 五、本手簿調査事項は毎年一月晝日迄に終了すべし

手簿に調査記入すべき事項

イ、現住戸數と増減

□高俣村の衛生施設

本村は從來衛生状態良好しからず年々傳染病患者續出し殊に大正四、五年の頃腸窒扶斯流行し多額の村費を支出するに至れり是に於てか同六七年に亘り根本的豫防撲滅策を樹立して爾來之が實施に努めたる結果近時本村に於ける衛生状態は著しく革新せられ良好なる成績を擧ぐるに至れり左に施設の梗概を掲げて衛生事務改善の資に供す

ロ、現住人口と増減

ハ、區民所有土地反別(區内持)

ニ、同 (區外持)

ホ、同 (他町村持)

ヘ、區内に他區民所有土地反別

ト、區内に他町村民所有土地反別

チ、自作小作戸數と小作付反別

リ、米麥雜穀蔬菜作付反別

ス、一毛作及二毛作田地反別

ル、農産物産額

ヲ、家畜頭數

ワ、人工造林面積

カ、高齢者數

▼衛生施設調査會の設置

衛生思想の普及發達を期し併せて衛生上の施設及衛生組合の活動に關する事項を審議調査する目的を以て村吏員、村會議員及村醫等相圖りて大正六年九月別記規程の下に衛生施設調査會を設置せり

高俣村衛生施設調査會規則

第一條 高俣村衛生施設調査會一般衛生思想普及發達ヲ期シ傳染病及地方病ノ豫防撲滅公衆衛生ノ施設并ニ衛生組合ノ活動監督ニ關スル事項ヲ審議調査スルモノトス

第二條 調査會ハ左記ノ者ヲ以テ之ヲ組織ス

委員長 (村長) 壹名

副委員長 (助役) 壹名

委員 六名

村衛生主任書記 壹名

顧問 問 (醫師) 若干名

委員ハ名譽職トシ村會議員中ヨリ三名村公民中ヨリ三名村會之ヲ選任ス

顧問ハ村長之ヲ囑託ス

任期ハ村會議員ヨリ選出スル者ハ其任期間村公民ハ貳ケ年トス

第三條 調查會ハ毎年春秋二期ニ村長之ヲ召集ス

但シ必要アルトハ臨時召集スルコトアルベシ

第四條 本會ノ經費ハ村費ヨリ之ヲ支辨ス

第五條 委員ハ出務ニ相當スル手當ヲ給スルモノトス而して爾來實施せる事項左の如し

一、衛生講習會

大正六年九月短期講習會を開催して村吏員、區長、衛生組合長、同幹事、及同伍長等全部を出席せしめて衛生法規及傳染病豫防上必要なる事項を徹底習得せしむ

二、衛生組合の設備品検査

大正八年春期に於て村吏員及調查會委員立會の下に村內各衛生組合に設備すべき消毒藥及器具等の検査を爲し之が完備を期せしむ

三、流行感冒に對する施設

大正七年十一月、十二月中に於ける感冒流行時に際しては急速調査會に於て左記各項を實施し大に其の効果を認められたり

イ、小學校に於て教員兒童を合して流行感冒の症狀並に豫防に關する適切簡易なる講演を爲す

ロ、衛生組合長を召集して流行感冒豫防心得を指示

し尙組合内各戸にも之を普及徹底せしむ

ハ、感冒患者ありたるときは其の住所氏名及年齢を主治醫より直に村役場へ申告せしめ交通を嚴斷して病毒傳播の防止に努む

四、夏期に於ける注意

調査會に於て夏期に於ける衛生上に就き注意すべき左記事項を協定し衛生組合長に指示して更に之を各戸に徹底せしむ

イ、村內一般に夏期に於ける消毒及清潔法を勵行すること

ロ、盆會に於ける飲食物の贈答を廢止すること

ハ、盆踊其の他多數の集合は期節柄見合すること

ニ、前各項の外衛生上一般に注意を拂ひ最善なる方法を講究して傳染病の豫防に努むること

ホ、就中大正八年度隣村吉部村に於て腸窒扶斯流行に際しては早くも同村界に消毒所を設置して消毒藥及器具を備付けて流行地に交通したる本村民に對しては衛生組合長監督の下に一々消毒を勵行し病毒の侵入を防止するを得たり

▼衛生組合の活動

明治四十四年三月村內各區に衛生組合を設置す而して

組合事業の改善發達を圖るは組合幹部其の人を得るにありとし常に役員の選任に留意し規約の勵行に努めて組合に設備すべき消毒藥品其の他の器具は法規の命する所に從ひ不斷之が完整を期す殊に大正七年十一月、十二月の頃に於ける感冒流行に際しては組合毎に各戸に就き之が豫防心得を懇切に指示して豫防に努め一面患者の發見を怠らず一度患者ありたるときは直に組合内に消毒及清潔方法を勵行し或は患者に對しては用務を辨する等特別の便宜を與へ常に衛生施設調査會と聯繫して能く豫防撲滅に力を致せり

▼部落巡回衛生講話會

毎年初夏の候に於て村內各部落に巡回衛生講話會を開設し村吏員、警察官及村醫等熱心に傳染病豫防及當時衛生に關する最も通俗なる講話を爲して衛生思想の普及に努む而して當日は引受區の衛生組合長以下役員は能く幹旋盡力し各部落共毎戸數人の出席を得て其の成績亦良好なり

▼腸窒扶斯豫防注射の勵行

先年腸窒扶斯の發生劇甚にして其の病毒は凡く村内に侵入し益蔓延の兆あるに鑑み大正四、五年に於て發生部落に對し腸窒扶斯の豫防疫注射を施行し其の効力確

實なるを認め大正六年以降は村內全部に亘り豫防疫注射を勵行して爾後一人の注射せざるものなきに至り別表示す如く同年以後に於ては腸窒扶斯の跡影を見ざるは偶然にあらざるべし

年 度	赤痢	腸窒扶斯計	腸窒扶斯豫防疫注射人員	同上經費	傳染病豫防疫支出額
大正三年	八	一	八	一	三一三
大正四年	一	一二	一二	二七	七六八
大正五年	二	九	一一	二六五	八八二
大正六年	一	一	一	一、二五〇	八三
大正七年	一	一	一	九八	一三〇
大正八年	一	一	一	一九〇	一四〇

◎ 學 事

□ 小學校兒童學力調査

本年三月十七日郡內各小學校尋常科第六學年並高等科第二學年兒童に對し學力試験を施行せり其の試験問題其の他次の如し

▼試験問題

尋六 讀方

一、左の文の大體の意味をつきんで、なるべく短く書き次に——のある所のわけをかけ
進取の氣象に富める人は何事を爲すにも、此の事は必ず成るべしと覺悟して、熱心に其の事に従ふを以て、成功は期せずして到る。引込思案の人は徒ら其の結果を思ひわすらひて、優柔不斷其の事業に取掛らざる中に、良好なる時機を失ふこと多し。快活なる精神を以て、熱心に其事業に従事せば天下何事か成らざるを憂へん。

二、次の文のわけを書き——のしるしのある所は例をあげよ。

春の美觀は満目雪をわさむく櫻花の盛りに如くはなし我が國には櫻の勝地甚だ多く、従つて古來詩歌に入り畫圖に上れるもの、其の數を知らず

三、左の語のわけをかき漢字には假名をつけよ。

- 1、分業 2、經濟 3、善美を盡す
4、公共營造物 5、恩威並び行はる

四、左の語を漢字で書け

- 1、イウベンチヨキン 2、ダイドコロ
3、フンレイドリヨク 4、カウツウキクワン

尋六 算術

5、クワウゴウヘイカ
1、 $(\frac{2}{8} - \frac{1}{6}) \div 0.14$

二、或小學校の全児童數は476人にして或日の出席児童數はその $\frac{23}{28}$ なりしとその日の缺席児童數は何程か

三、書店に行きて本を買ひ、定價は50錢と書かれしも實際の價は高くなりて60錢支拂ひたりと、定價の何割増されしか。

四、或児童が學校に來るに全體の道の長の $\frac{2}{3}$ を歩かしが學校まではなほ12町ありと道の全長は何程か

注意(一)は運算のみ(2)(3)(4)は式運算答を要す。(試験委員は本項又は児童に注意せらるべし)

高二 讀方

一、次の文を詳解せよ。

ナポレオン一世諸將を晩饗に招く。期に及んで、諸將猶來らざりければ彼は一人にて其の食事を始めたり。まさに食卓を離れんとする時、諸將の漸く來るを見て、點頭して曰く「諸君既に食事の時間は済みたり請ふ各自の職務に服せよ」と。凡そ時間を

大切に守るは、勤勉の習慣を生じ、責任を盡くし、義務を重んずる所以にして身を立つる基なり。

二、次の語に讀假名を附し意義を書け

- 1、新年祭 2、間税 3、紙の金
4、委曲を盡す 5、葉武者もには目なかけと。

三、左の語を漢字にて書け

- 1、カニエウキヨウキン 2、ガイチニウクサ
3、アンネイチツヤヨ 4、ニウギキヤカイヤ
5、リウカウゼイカメボヤ

高二 算術

一、一家5人にて前月に米7斗2升5合食せり。此家に本月の初め下女一人を傭ひ入れたり。本月の食糧は何程か。但し各人一月の食糧は皆等しとす。

二、今日50圓50錢を郵便貯金し明年の今日元利全部引出せば何程得ることなるか

但し郵便貯金の利率は年四分八厘とす
三、つぎの如く圖示せられたる如あり。何段何歩何歩なるか。但しこれは六百分の一の圖とす。

注意 本圖は此の形のものを適宜に児童に書取らしめ其のものにより計算せしむべし。從て答

は各人異なるべし。

四、人體の常溫を攝氏の37度とすれば、これは華氏の何程なるか。

注意 式運算答を要す(試験委員は本項又は児童に注意せらるべし。)

調査委員

樺西尋常高等小學校訓導兼校長	大和春三
白水尋常高等小學校訓導兼校長	三上純象
明倫尋常高等小學校訓導	久津内猶一
三見尋常高等小學校訓導	武安明
樺東尋常高等小學校訓導	江村隆雄

調査方針

- 一、飲酒調査ヲ主トス
二、各問題ニツキ要求點ヲ限定シ之ニ依リテ採點ノ標準ヲ定ム
三、同一問題ハ成ハバ同一委員ニ於テ調査ス

四、點數、現ハレザル缺陷ニモ注意ス

▼問題ノ要求點及採點標準

尋 六 國 語

第一問題 要求點 大意ノ把握 採點標準 二十點

第二問題 要求點 語句ノ解釋 採點標準 一ヶ所五點宛

第三問題 要求點 文ノ解釋 採點標準 前後二段ニ分テ五點宛

第四問題 要求點 內容舉例 採點標準 一ヶ所五點宛

第一問題 要求點 語句ノ意義 採點標準 一語句二點宛

第二問題 要求點 語句ノ讀方 採點標準 一語句三點宛

第三問題 要求點 書取 採點標準 一語句四點宛

第一問題 要求點 正シキ運算ノ經路及結果 採點標準 二十五點

第二、三四問題要求點 正シキ式 採點標準 十五點

但シ運算ノ經路ニ多少ノ缺陷アルモ結果ノ正シキモノハ十點トス

正シキ答 十點

備考 運算ハ答ヲ得ル經路ヲ知ル參考ニ止ム

第一問題 要求點 文ノ詳解 採點標準 主要箇所五ヶ

第二問題 要求點 正シキ式 採點標準 十五點

但シ運算ノ經路ニ多少ノ缺陷アルモ結果ノ正シキモノハ十點トス

正シキ答 十點

備考 運算ハ答ヲ得ル經路ヲ知ル參考ニ止ム

定メ一ヶ所六點宛トス

第二問題 要求點 大意 採點標準 二十點

第三問題 要求點 語句ノ讀方 採點標準 二點宛

第四問題 要求點 語句ノ意義 採點標準 四點宛

第一、四問題 要求點 書取 採點標準 四點宛

第二問題 要求點 正シキ式 採點標準 十五點

正シキ答 十點

備考 運算ハ答ヲ得ル經路ヲ知ル參考ニ止ム

第二問題 要求點 正シキ式 採點標準 十五點

正シキ答 十點

但シ一錢未満ノ端數ヲ切捨テサルモノハ五點トス

正シキ式 採點標準 二十五點

但シ求積ノ方法ヲ理解セリト認ムベキモノハ十五點トス

縮尺ノ意義ヲ理解セリト認ムベキモノハ十點トス

ノハ十點トス

ノハ十點トス

ノハ十點トス

ノハ十點トス

ノハ十點トス

ノハ十點トス

▼飲 陷 調 査

尋 六 國 語

第一問題

一、問題ノ要求點ヲ理解シ得ザルモノ多シ即チ「大意ノ把握」トハ如何ナルコトヲスルモノカトイフ

理解ナキモノ多シ

一、假令題意ヲ解スルモ 大意ヲ把握セズシテ冗長ニ所謂解釋ヲナセルモノ多シ

一、語句ノ解釋ハ概シテ不徹底ナリ

例ハ「天下何事カ成ラザルヲ憂ヘン」ヲ「天下何事カ成ラザラン」ノ意ニ解シ「憂ヘン」ノ意味ヲ缺ケルガ如シ

第二問題

一、問題其者ニ對スル讀解力ニ乏シ即チ題意ヲ理解シ得ザルモノアリ

例ハ「詩歌」櫻ノ勝地「ノ如キ學例スベキモノ唯解釋セルガ如シ

一、語句ノ解釋法 換言法ニ偏シ爲ノニ眞ニ理解セルモノナルヤ否ヤ不明ノモノ多シ

一、語句ノ意義ノ不徹底ナルモノ多シ

例ハ「あざむく」ヲ「除ケテ」又ハ「ト共ニ」ナドニ誤解セルモノ 又「其數ヲ知ラズ」ヲ「其數ハ知ラ

ナイ」ノ如キ不適當ノ解釋ヲナセルガ如シ

第三問題

一、發音ヲ正シク假名ニ書キ現ハシ得ザルモノ多シ

例ハ「分業」ヲ「ブンギョ」ヲ「ブンギヤ」等

經濟ヲ「ケイサイ」ヲ「ケイダイ」等

善美ヲ盡スヲ「デンビナツクス」等

公共ヲ「コウキウ」ヲ「コウキヨ」ヲ「コチキヨウ」等

營造物ヲ「エイドウブツ」ヲ「ヘイドウブツ」等

一、語句ノ解釋法ノ拙劣ナルモノ多シ

例ハ「分業」ニツキテモ具體的例ヲ舉ゲザルモノ多シ

「善美ヲ盡ス」ノ如キ曲言法ノ解釋適當ナラズ

一、漢字ノ誤用多シ

例ハ「多クさん」等

第四問題

一、漢字ノ記憶ノ不正確ナルモノ多シ

例ハ「郵」ヲ「郵」ニ「關」ヲ「關」等ニ

一、漢字ノ適用ノ不正確ナルモノ殊ニ多シ

「交通機關」ヲ「行通」汽關」等ニ

「貯金」ヲ「預金」「陛下」ヲ「陸下」等ニ

高二 國語

第一問題

一、語句ノ解釋不徹底ナリ

例ハバ「ナボレオン」一世ノ「一世」ノ意義ヲ「一生」又ハ「一代」ノ中「ト」解釋セル如キ
晩餐ニ招ク「ナボレオン」招カレタル如クニ解釋セル等ノ如シ

一、全体トシテ意義貫徹セズ不徹底ナルモノ多シ
主想ノ把握ヲナセルモノ少シ

第二問題

一、解釋法ノ不適當ナルモノ

「祈年祭」ヲ「としごひ祭」トノミ言ヒ換ヘ
「間税」ヲ「間接税」ト言ヒ換ヘタル如シ

一、語句ノ正シキ意義ヲ失フモノ多シ

例ハバ「委曲ヲ盡ス」ヲ「クハシイ音楽ヲ奏ス」「リツバナ音楽」等トナセル如シ

一、語法ノ不徹底

例ハバ「目ナカケツ」ヲ「目ヲカケハシナイ」等トナセル如シ

一、振假名ヲツクルコトツキテハ尋六ニ全シ

第三問題

缺陷 尋六ニ全シ(第四問)

尋六 算術

第一問題

一、小數ヲ分數ニ直シ計算スベキモノナルニ之ニ注意セヌモノ多シ

一、等號ノ亂用多シ

第二問題

一、問題ノ讀解力乏シキカ答ガ缺陷兒童ナルベキヲ出席兒童トナセルモノ多シ

一、 $476 + (1 - \frac{23}{28})$ ナドト誤リ乗除法ノ應用力乏シキモノ多シ

第三問題

一、眞ニ題意ヲ理解セズ特ニ何割増トイフコトノ不明ナリシガ如シ

一、歩合算ニ於ケル歩合ノ出シ方ヲ知ラヌヲシキモノ多シ

一、小數ニ直シテ書クベキ $10\frac{10}{100} = 10.1$ 等歩合ヲ其ノ儘書ケルモノ多シ

第四問題

一、式ト運算トノ區別ヲ辨別セサルモノ多シ特ニ分解

第一問題

一、本月前月ノ意義ヲ理解セザルモノ多シ

第二問題

一、郵便貯金ニ關スル智識乏シ即チ

利子ヲ預入ノ月ト拂戻ノ月トニツカザルコト
毎年三月末ニ利子ヲ元金ニ繰込ムコト

利子ハ一錢未満ノ端數ヲ切捨ツルコトヲ知ラサルモノ大多數ナリ

一、元利合計ヲ求ムル式ヲ知ラザルモノ多シ
一、名數ノ取扱方ニ不注意ナリ例ハ左ノ如シ

$$650 \times (1 + 0.048 \div \frac{11}{12}) = 647.8 \text{ 錢}$$

第三問題

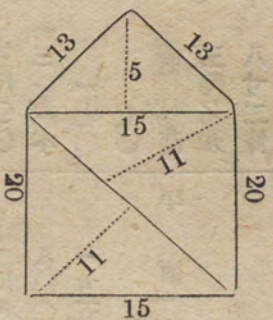
式ヲ使用セルモノハ式ト運算トヲ混交シテ書ケルモノ尠カラズ

一、名數ト不名數トノ用途不明瞭ナルガ如シ即チ運送中不用ノ場所ニモ名數ヲ用ヒ式ノ左邊ノ結果ハ不名數トナルベキニ右邊ニハ名數ヲ書キ式ノ左邊ノ結果ハ名數トナルベキニ右邊ニハ不名數ヲ書ケルモノ多シ

一、立式ヨリ直ニ運算ニツヅクモノ多シ
高二 算術

一、圖形ヲ描カスシテ立式セルモノ多クアリ依テ式ノ出所明カナラズ

一、寸法ノ記入ニ不要ノモノ多シ例ハ左ノ如シ



是レ求積ノ要素不明ナルヨリ生ズ

一、三角形ノ面積ヲ出スル $15 \times 13 \div 2$ トセルモノ多シ(前圖ニ依ル)

一、縮尺ノ意義ヲ全ク解セヌモノ多シ

一、長サト面積トヲ混交セルモノ多シ例ハ左ノ如シ

$17.5 \text{ 分} \times 5 = 7.5 \text{ 分} \div 75 \text{ 平方分}$
一、名數ヲ乘數ニ置キタルモノ多シ例ハ左ノ如シ

$$17.5 \text{ 分} \times 5 \text{ 分} \div 2 = 375 \text{ 平方分}$$

是レ面積其ノ者又ハ面積ノ求方ニ對スル意義ノ不明瞭ナルコト依ルルカ

[illegible]

施肥期	種類	數量	含有素	成分	單價	價格
基肥 十一月二十九日	綿實 粕	七貫	〇、三八五	〇、一七五	〇、一六八	九、〇〇〇
	硫酸アンモニヤ	二、	〇、四〇〇	〇、四五〇	二、二〇〇	二、四〇〇
	過磷酸石灰	三、	〇、一七五	〇、一六八	九、〇〇〇	六、三〇〇
第一回 一月四日	綿實 粕	七、	〇、三八五	〇、一七五	二、七〇〇	〇、八一〇
	硫酸アンモニヤ	五、四	一、〇〇〇	〇、一六八	二、二〇〇	六、三〇〇
	過磷酸石灰	一、〇	一、五〇〇	二、七〇〇	六、〇〇〇	二、七〇〇
第二回 十月十五日	堆肥	三〇〇、	一、五五〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	三、〇〇〇
	大豆 粕	一三、	〇、八七一	〇、一九五	〇、二六〇	五、七五〇
	硫酸アンモニヤ	一〇、	二、〇〇〇	一、七五〇	二、〇〇〇	一、二〇〇
	過磷酸石灰	一五、	二、二五〇	一、七五〇	三、〇〇〇	四、五〇〇
第三回 一月十九日	木灰	一五、	〇、五八五	一、七五〇	〇、五三〇	〇、八〇〇

珍好ハ五升ヲ要ス
覆土
一反當五升
十一月二十九日
二月二十七日第一回中耕(三月二十
六日第二回中耕)
三月二十五日除草

土 入
二月二十八日 第一回 三四分
三月二十七日 第二回 一寸
土入器ヲ用フ土入器ハ巾六寸五分
網目六分六角形高サ三寸五分トス
四月十六日 第二回 二寸
計 三寸三四分
六月八日豫定 一升粒數四萬五千五
ナルヲ以テ一坪一千六百本反五石七
斗ノ見込

一、播種量
一、播種期
一、手入
中耕
除草

施 肥 期	種 類	數 量	合 有		成 分	單 價	格
			窒 素	一 磷			
原 肥 スギゴミニ 全 (種子ノ上ニ)	堆 肥 醬 油 干 粕 踊 粕	四〇〇 三〇〇 一五〇 〇、九〇〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 〇、二二〇	一、〇〇〇 一、〇〇〇 一、〇〇〇 〇、一五〇	二、五〇〇 二、五〇〇 二、五〇〇 〇、一五〇	〇、一〇 〇、五五 六、〇〇	四、〇〇 一、六五 九、〇〇
一、播 種 方 法	馬鋤ノ下ニ板片ヲ附シ大体ノ雁岐 ヲ切り其ヲ更ニヌイホリ (巾廣キ)						
一、耕 耨 方 法	畦ニ鋤キ土塊ヲ碎キ南北ニ一尺二 寸ノ畦中ニ八寸ノ雁岐巾溝巾ハ一 尺二寸トス						
一、品 種	小珍好人 長サ二尺六寸分蘗八寸巾 五本ニ分蘗ス穗長一寸五分 六、七十粒						
一、栽 培 面 積	一反六畝 (二町)						
一、前 年 麥 作 狀 況	二石五斗 (大豆粕十貫下肥一荷人 造肥料十貫)						
一、前 作 稻 狀 況	反當九俵 (肥料大豆粕十七、堆肥二 〇〇、鍊粕八石灰三〇、貫位)						
一、土 性	都濃郡未武南村 清 水 重 平 砂質壤土、耕土四寸、底砂礫土、 排水良好						
一、播 種 期	一、播 種 期 一、中 耕 期 一、除 草 期 一、入 肥 期						
一、收 穫 期	六月七日ノ豫定 (一坪一千三百本 四石五斗アル見込)						
一、固 マル	計 三寸七分 (今ハ二寸ニ テ)						
一、節 寸	一月二十一日 二三寸ノ頃 三月二十日 全 一寸 四月五日 全 二寸 四月十五日 鉤ニテ 五分						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 五寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸						
一、行 フ 始 メ	行フ始メハ雁岐ノ方低シ						
一、四 升 五 合	反當二升八合						
一、十 二 月 二 日 三 日	十二月二日三日						
一、鉤 ニテ	鉤ニテ 二寸						
一、鋤 ニテ	鋤ニテ 二寸</						

蛙 巾		雁 岐 巾		一、播 種 法		一、播 種 量		一、收 穫 期	
回 轉 キ 起 シ テ 行 フ	三 尺 七 寸 五 分 (七 寸 五 分 ナ 五 カ ナ)	稍 南 北	八 寸 巾 ニ ツ 中 ヘ 四 寸 五 分 空 地 ナ 置	溝 ハ 僅 カ ニ 凹 キ ノ ミ	手 ニ テ 二 寸 二 分 四 方 ニ 一 粒 宛 ト ス	反 三 升 五 合	一、播 種 期	一、前 作 稻 狀 況	一、前 年 麥 作 狀 況
十一月十七日	ナシ	第一回 二月下旬 普通鋤	第二回 三月十五日 全	第三回 四月二十日 全	計	六月二日ノ豫定	一、前作稻狀況	一、前年麥作狀況	歐洲麥出來過金肥七八圓草立ノ場
一、播 種 期	一、手 入	中 耕 除 草	土 入	二、一八二	二、四七〇	二、一八二	一、前作稻狀況	一、前年麥作狀況	歐洲麥出來過金肥七八圓草立ノ場
十一月十七日	ナシ	第一回 二月下旬 普通鋤	第二回 三月十五日 全	第三回 四月二十日 全	計	六月二日ノ豫定	一、前作稻狀況	一、前年麥作狀況	歐洲麥出來過金肥七八圓草立ノ場
十一月十七日	ナシ	第一回 二月下旬 普通鋤	第二回 三月十五日 全	第三回 四月二十日 全	計	六月二日ノ豫定	一、前作稻狀況	一、前年麥作狀況	歐洲麥出來過金肥七八圓草立ノ場

第一回一月二十日	干	三〇	一、八〇〇	〇、四二〇	〇、三〇〇	六、〇〇	一八、〇〇
全	過燐酸石灰	一〇	一、五〇〇	一、五〇〇	〇、三〇〇	三、五〇	三、五〇
全	硫酸アンモニヤ	六	一、二〇〇	〇、二一〇	〇、一五〇	一、二〇	六、七二
第二回三月二十日	干	一五	〇、九〇〇	〇、二一〇	〇、一五〇	六、〇〇	九、〇〇
全	過燐酸石灰	八	八、三〇〇	五、五四〇	四、一〇〇	三、五〇	二、八〇
計							五四、六七〇

總計

堆肥

四〇〇貫

窒素

醬海粕

三〇、

燐酸

六〇、

加里

干踊

一八、

勞役

播種

四人

ガンゼキ掻

一人

土入

一回 二人
二回 四人
三回 四人
四回 一人

刈取

三人

扱落

六人(百二十束一人二十束)

脱穀

一人(十俵)

計

二十六人

一、土

性

一、前作稻狀況

一、前年麥作狀況

一、栽培面積

一、品種

一、整地

耕勸方法

右田村新町 土手 隆 一

砂質壤土、耕土五寸、底粘質土、排水良好

八俵半(硫安五貫過燐酸石灰十貫

石灰三十貫金肥十一圓)

六俵一六俵半(五月ノ金肥)

芒長一寸七分一穗粒數一

二反十 八十四粒草丈三尺分葉八

六歩 寸巾長サ一尺六分本二粒

五本トナル穗長一寸七分

小珍好、紅珍好(紅珍好ハ小珍好

アリ粒大ニシテ

莖太シ)

一度勸キ起シ土塊ヲ碎キ更ニ今一

第四回追肥 三月中旬	硫曹五号	一〇	一、〇〇〇	〇、六五〇	九、〇〇
第五回追肥 三月下旬	人糞尿	四五	〇、二五六	〇、〇五九	〇、一〇
計		四、七七四		二、二七八	一九、一五

一、土性	厚狹町柳ヶ瀬 白石熊一	雁岐巾	二尺巾六寸置イテ二條
一、前作稻狀況	砂質壤土、耕土七寸、底粘質土	播種法	平蒔
一、前年麥作狀況	排水良好	播種量	三升五合
一、栽培面積	七 俵	播種期	十一月二十日
一、品種	四 俵	中耕除草	ナシ
一、整地	一反四畝	一回 二月中旬	三四分
耕勸方法	小珍好 草丈三尺一寸分葉二尺、 二尺四寸、一八四本穗長 一寸四分芒長一寸六分	二回 三月中旬	五分
畦 巾	二度勸ヲ行フ	三回 四月十日	五分
	五尺五寸	計	一寸三四分
		收穫期	六月七日

施肥期	種類	數量	含有素	成分	單價	價格
全 基肥 下	敷堆肥	四〇〇 ^實	二、〇〇〇 ^實	一、〇〇〇 ^實	一、〇〇〇 ^円	四、〇〇〇 ^円
	大豆粕	一四〇	〇、八七一	〇、一九五	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇
	硫曹五號	二二〇	二、〇〇〇	一、五〇〇	九、〇〇〇	一九、八〇〇
	智利硝石	八	一、二〇〇	一	一二、〇〇〇 ^円	九、六〇〇 ^円

計	全		第二回追肥		第三回追肥		第四回追肥	
	三月月中旬		四月三日		四月十日		四月十日	
人糞尿	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
酸硫亞母尼亞	四	〇、八〇〇	四	〇、八〇〇	四	〇、八〇〇	四	〇、八〇〇
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
人糞尿	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二	五〇	〇、三四二
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八
	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八	一	〇、〇七八

▼視察ニ對スル結論

一、土

性

一、土地肥瘠

一、品

種

一、整

耕助方法

畦ノ立テ方

雁岐巾

麥ハ粘質土砂質ノモノヨリ手入困難ナルモ多收ヲナシ得ベキコト
此回ノ多收穫ノ出品田ハ凡テ肥沃ナル田地ヲ選ビタルコト
多收穫用トシテ大部分小珍好ヲ栽培シタリ而シテ乍ラ是ニ類スル鬼ムギ其他在來種中ノ同系統ニテ可ナ

二度勸ノ方法可ナルコト
排水不頁ノモノヲ除ノ外平面時ノ方法ヲ行フコト
四尺前後ヲ可トス
縦トシ畦巾ノ六割ヲ雁岐巾トナス

農具ノ利用

一、播

種

一、土

入

一、肥

料

一、勞

役

而シテ中央ニ三四寸ノ空地ヲ設ク
整地ニハ犁馬鍬、雁岐切ニハ馬鍬
播種ニハ播種器ヲ用フルコト
反五升前後ヲ可トス
生育期間ヲ通シテ三回乃至四回ニシテ二三寸トスベシ
四五石ノ水量ヲ得ルニハ窒素八貫
磷酸七貫加里六貫ヲ要ス普通作増
收ノ場合ハ三要素各三貫以上施ス
ベシ
麥作増收廣時法ハ必ズシモ勞力ヲ過度ニ要スルモノニアラズ

□甘藷の栽培に就て

甘藷は飯に混ぜて常食とし或は副食物として賞味せられ

其の他澱粉を製し若しくは各種の工藝原料に供せらるゝ等其の用途甚だ廣く國民の糧食として古來米麥に次で重きを措かるゝ所以は今更喋々を須たす本縣に於ても時代の要求に鑑み本年度より各郡へ甘藷の優良品種を配布し聞ねく之が栽培を奨励する方針にて先づ數個所に採種圃を設置するゝに就き本部にては大井村松浦庄吉、吉部村末成喜一の兩氏に採種圃を委託し之が原料を供給することゝなれり茲に栽培法の標準を示して一般の參考に資す

一、當場に於ける苗の仕立法

(イ) 苗床の構造 苗床は三月中旬頃下拵をなすのである、先づ床幅七尺長さ隨意方位は南北にし其材料は麥稈又は麥把にて周圍を厚さ一尺二三寸とし其中に落葉又は麥稈、藁等を切りたるものと厩肥とを混じ踏み付け平らかにし其上に肥土を四寸位の厚さに置き其床面の周圍に藁把又は麥稈を一把宛置き肥土の流失を防ぐと同時保温に便ならしむ、培土には腐熟堆肥を混じ床面一坪に付き人糞尿五升位を薄めて施し更に其上には砂を一寸位の厚さに敷き種伏の準備とするのである

三月上旬に至り凡そ一坪に對し十五六貫目の種藷を一系列は頭部を東に一系列は頭部を西に交互に並列し藷と藷との巨離は拇指の狹まる位に置くのである、種藷の

大なるものは深く小なるものは淺く伏せその上部に高低なき様注意し其上に細砂を種藷のかくる迄振掛け更に粉殻(豫め細砂三分位と人糞尿の少量を混じ切返し置きたるもの)を一寸位の厚さに撒布し、次に蓋として藷袴俗に(アクタと稱す)を四寸位の厚さに置其上を又古藪若しくは藁を以て覆ふて置くのである

(ロ) 管理 苗床の温度は華氏七八十度位が適當で若し九十度以上に發熱すると種藷を腐敗せしむる事があるから常に注意し其際は蓋や藪を薄くして尙高温に失するときは所々に穴をあけ冷水を一坪に付一荷位注入するがよい、夫れにても尙高温なるときは種藷を取出し所々に穴をあけ蒸熱を發散するのである、但し雨大續き濕氣充分あるときは九十度位は差支へないのである、種伏して十日位にて種藷は頭尾に根を生し所々に發芽するものである、發芽二三節となりたる時暖かい日に覆の藪をとり藪袴を薄くし日光に晒し苗の強健を圖るのである、若し藪袴雨濕に遇ひ濡れたる場合は乾燥せるものと取換へを要す。又上部の藪袴を良く乾燥して取換へても良い、其後は毎日日中は日光に晒し、夕方は防寒として藪袴を充分被せ覆をなすのである、四月下旬に至り温暖となりて降霜の恐れがないやうになつ

たなら世話はないのである、苗の發育期間晴天打續き苗床の粉殻又は砂に水分不足を生じたる場合は適當に灌水を要するのである

(ハ) 苗の切取り 此様に仕立てた苗は茅苗と稱し普通の蔓苗とは異り苗八九寸に生長し節数の多いものより順次に根部の白い所より刀物にて切取り二百本位を一把となし直ちに本畑に挿植するか又は他に輸送するのである、夫れで五月中旬頃より六月迄に一番苗、二番苗、三番苗と順次に切取るのである、挿植の際は根元の白根は必要がないから切棄て頂芽は摘み植込めばよいのである、甘藷苗は少しく莖葉を萎凋し栽植するのが却て收量が多い位で、切取り後數日を經たものが好結果を得る事がある、然し遠方より到着した場合は、直ちに開封して蒸熱を防ぎ陰濕の所に置き苗の快復を講ずる事が大切である

二、採種圃の位置及土質

(一) 位置及土質 日當り風通しのよいのは勿論排水のよい砂質地又は、砂質壤土で地力は瘠た位の處がよく肥た土地は出來過ぎて却つて收量少なく種藷としてもよくないのである

三、整地

甘藷の早植は普通麥の畦間を耕鋤して其處に挿植するのが苗の保護にも適し成績もよいのである、株間は一尺から一尺二寸位が適當で、一畝歩に付き四百本から四百五十本位の見當でよい肥料を施す場合は豫め麥株の南側に四寸位隔りたる所に一尺二寸位の距離に點々堆積しておき、其場所へ挿植するがよいのである、尤も肥料は腐熟したる堆肥や木灰位で新鮮なる厩肥等は藷苗の生長を害する患がある、若し前作に麥がない場合は從來の方法でよいのである

四、挿植の方法

甘藷苗は五月から七月中旬頃迄は何時植へても良いが豐産なのは五月下旬から六月上旬頃が一番よい様である、栽植の方法は立植斜植、船底植等があるが立植は苗を畦上に眞直に直立して栽植する方法で根端が比較的深く土中に入るから土地の乾燥し易い所に好いのである、斜植は苗を畦上に斜に向て挿植するので此方法も比較的土地の乾き易い所に行ふが利益である、船底植は鈎針植とも稱し苗の根部を土中に彎曲に埋めるので一般に最も利益多き方法である、蓋し苗が比較的地表に近く一樣の高さを保つて埋没せらるゝ爲め根の發育良好なること、地中へ埋めらるゝ節の數が多い爲めである

る、此方法を行ふ場合は其地表に現れたる部分はなるべく眞直に立てる様に注意することが大切である、苗の梢端は略二寸位殘し其他は被土し、其中程を能く手で壓するのである、此際比較的濕潤なる所は軽く壓し乾燥せる土地又は旱天の場合は少しく強く壓し置く必要がある、若又畑地が甚しく乾燥してゐる場合は少しく深植するか又は出來得る限り灌水するがよろしい

五、肥料

甘藷の肥料としては磷酸加里肥料を主とすべきもので窒素肥料の多用は却て莖葉繁茂し根部の發育を害するから注意を要するのである、普通反當木灰十五貫過磷酸石灰五貫目位を施用すれば充分である、殊に瘠地は堆肥百貫人糞尿五十貫位又は米糠の十貫目も施用すれば充分である

六、中耕除草

麥刈取後成る可く早く中耕や除草をなすと同時に培土を行ひ、若し追肥を施す場合は此際掛肥をするのである、培土は苗の根元に土を寄せぬ様に注意を要し終了後は麥稈を一面に敷き雜草の發生や發根を防ぎ又旱害の豫防に備へねばならぬ

七、蔓返し

甘藷の栽培上蔓返しは大切な作業の一つで、若しもこの蔓返しを行はぬときは節から根を發し莖葉は徒らに繁茂生長して、其細根も漸次肥大し爲めに肝腎の株元の甘藷は充分の養料がないため完全な成長を遂げる事が出來ず従つて品質の劣等な藷となり且つ其收量も少くなる譯である、そこで蔓返しを行つて白根の發生を未然に防止し既に發生しおるものは其成長を止めて一方莖や葉の徒長すると制し藷の肥大充實を圖るのである蔓返しを行ふ時期は蔓が三四尺に伸長したる頃より九月下旬頃迄に三四回成るべく晴天の日中温度が高いときがよいのである

蔓返しの際、注意すべきは苗の根元より五六寸位迄は眞直に保つ様にする事が肝要である

八、收穫

種藷とすべき甘藷の收穫は十一月上旬頃其葉の稍々黄變した頃十分熟したるものを見計らひ採收するがよい堀取りは晴天にして土地の良く乾燥した時を選び基を五寸位藷に付けたる儘切取り熊手を以て藷を丁寧堀取り甘藷に傷を付けぬ様注意する事が肝要である、堀取りたる甘藷は其儘畑に於てよく乾燥させ日暮前に屋内に搬入し斯くすること三日間にして直ちに貯蔵するが

五級俸(當分五拾貳圓)給與(六月十一日)

秋商業學校教員異動

秋商業學校教諭 守田 禎 一

大正九年六月十三日就職三兄同助役

吉田六藏 再任

町村吏員異動

依願解雇(六月十五日) 阿武郡役所雇 弘中 俊夫

阿武郡役所雇ヲ命ス 月俸給拾五圓給與 學務係勤務ヲ命ス(六月五日)

給九級俸(六月十七日)

阿武郡書記 岩崎 芳彦

任佐波郡視學 給四級俸(六月十七日)

阿武郡視學 東 久治

辭令

小學校教員異動

新任ノ部

新任月日	校名	俸給	職名	氏名
六月十五日	福川六級上俸	訓導	澄川タカ子	
全	奈古全	全	三隅田クマ	
全	明木全	全	中村ヤエコ	
六月十七日	德佐月俸十圓	准訓導	心得木村トメヨ	

退職ノ部

退職月日	校名	職名	氏名
六月十七日	生雲	訓導	林 春越

休職明倫尋常高等小學校

訓導 中村 藤 一

復職ヲ命ス(六月十日付)

奈古尋常高等小學校

訓導 野 稻 唯一

明倫尋常高等小學校

訓導 吉屋 園 吉

よい長く土間に放置し置くとか畑に於て雨露に遇はしめることは極く悪いのである

九、貯藏

種用として貯藏する諸は殊に注意を要するので屋内適宜の場所に幅四尺長さ適宜深さ三尺位の穴を掘り粉殻又は麥稈等で貯藏するも良いが高燥にして排水良好なる土質の場所を幅三尺長さ適宜深さ四尺位の穴を掘り其穴底及側壁は藁を一面に當て其中に諸と九株至乃十株位を藁を束ねて一束となし規則正しく並列し一通り並べ終へたら其上に藁を一面に敷き更に甘藷の束を

並べ次に藁を敷く斯く反覆して地表面に至りなば最上部に粉殻を厚く廣く被ひ土を盛り固く踏みつけねき其上に屋根を設け雨水の侵入を防ぐのである、茲に注意すべきは甘藷貯藏中發生する瓦斯を排出するため換氣孔を設けることである、即ち竹筒の節を抜いたものを四五尺の長さに切斷し之れを數個所立て置き筒先の上部は雨水の浸入を防ぐ設備を施すことが必要である

十、品種の特性

優良と認むべき主なる品種の特性を示せば左の如し

品種名	早中晩	品質	特	徵	收量	特產地	備考
元氣	晚	良	青蔓	外皮薄赤	多	長崎縣	食用 貯藏ニ適ス
大正	中	極良	赤蔓	外皮濃紅	普通	千葉縣	一名千葉赤トモ稱ス
三池	晚	良	青蔓	外皮黃白	多	大島郡	食用 貯藏ニ適シ味良好
五島	中	良	赤蔓	外皮赤	多	長崎縣	食用
アメリカ	晚	良	青蔓	外皮白	最多	大島郡	干藷又ハ 貯藏用
八幡	早	良	赤蔓紫色ヲ帶ブ	外皮白	多	神奈川縣	早生栽培ニ適ス
白蔓	早	稍良	青蔓伸長セズ	諸長ク外皮白	最多	千葉縣	早生栽培又ハ 澱粉用
蘇原	中	良	赤蔓	外皮黃白	多	岐阜縣	燒藷用 及貯藏用ニ適ス

訓導

市

成

男

小學校令施行規則第百二十二條第三號ニ依リ休職ヲ命ス
(五月三十一日付)

奈古尋常高等小學校訓導
兼奈古實業補習學校訓導

兼職ヲ免ス(六月三十一日付)

野稻唯一

増俸ノ部	増俸月日	五月二十日	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
	校名	高瀬九、下訓導	持坂七、下訓導兼校長	七、下訓導	九、上同	篠生七、下同	九、上同	九、下同	六、下同	篠目七、下同	藏目喜七、上訓導兼校長	八、上訓導								
	増俸																			
	職名																			
	氏名	張ツユ	吉松静修	福江慶作	内田ツチャ	吉崎來一	長見定章	長トシ	河野ヤエ	内藤尚之	山本詩教	田中英作								
	名																			

[illegible]

參考資料

目次

一、町村立小學校尋常科兒童出席步合表(五月分).....	一
二、同	三
三、町村吏員報酬給料月額表.....	四
四、町村立小學校教員月俸額表.....	六
五、小學校兒童學力調查成績表.....	八
六、阿武郡輸出重要水產物表ノ一(大正八年分).....	一〇
七、同	一二

[illegible]

學校名																				男		女		計		本		月		前		位																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
大井 紫福 篠生 見島 明倫 佐並 大島 育英 小川 奈古 椿東 持坂 地福 白水 相島 野呂 彌富 德佐 上川 福田																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
九六、三七	九六、四一	九六、二三	九六、六六	九六、七〇	九六、二三	九七、三六	九六、〇九	九六、六八	九六、五三	九五、二五	九七、一五	九六、〇〇	九六、五〇	九五、四五	九三、九一	九五、五五	九四、二八	九二、九〇	九三、〇六																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													

町村名	種目	町	村	長	助	役	收	入	役	書	記
萩	椿郷東分			六六、六六〇	△	五〇、〇〇〇		四〇、〇〇〇			二〇、〇〇〇
山	椿郷東分			四一、六六〇		三三、三三〇		三〇、〇〇〇			二一、〇〇〇
三	椿郷東分			二五、〇〇〇		一七、〇〇〇		一三、〇〇〇			一九、〇〇〇
明	椿郷東分			二八、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一七、〇〇〇
佐	椿郷東分			二八、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一七、〇〇〇
川	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一七、〇〇〇
篠	椿郷東分			二四、〇〇〇		二〇、〇〇〇		一九、〇〇〇			一七、五〇〇
生	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
地	椿郷東分			一七、〇〇〇		一六、〇〇〇		一六、〇〇〇			一八、〇〇〇
德	椿郷東分			五〇、〇〇〇		二五、〇〇〇		二二、〇〇〇			一八、〇〇〇
嘉	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
高	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
吉	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
福	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
紫	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
大	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
奈	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
字	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇
田	椿郷東分			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一八、〇〇〇

三、町村吏員報酬給料月額表

前月郡平均	本月郡平均	見島	高俣	大島	三見	育英	福川	川上	生雲	地福	徳佐	紫福	篠生	小川	奈古	大井	多磨
九七、四三	九六、三一	八六、〇六	八九、二三	九三、九三	九三、九一	九五、二一	九四、八九	九五、六〇	九五、五七	九六、四三	九五、七四	九七、〇三	九五、四〇	九六、六〇	九六、九一	九五、九四	九八、四〇
九七、三二	九七、五八	九八、四六	九九、五一	八九、一〇	九七、八二	九五、三九	九七、九三	九六、九七	九七、八〇	九七、八九	九八、四二	九五、八七	九七、一八	九七、一九	九六、八五	九八、三〇	九五、二三
九七、三一	九六、三三	八七、七三	九一、七二	九二、七七	九五、二二	九五、二九	九六、〇〇	九六、一九	九六、二二	九六、五四	九六、六〇	九六、六三	九六、七〇	九六、八〇	九六、八九	九七、一一	九七、三〇
1	1	二七	二六	二五	二四	二三	二二	二一	二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二
1	1	二七	二二	二三	二三	一五	二一	二五	二六	七	一四	一八	二二	一一	一〇	二四	一九

A BUGUNPO

備考

本調査ハ大正九年度豫算ニ依ル

合	見	六	田	小	彌	須	福	宇	奈	大	紫	福	吉	高	嘉	德	地	生	生
計	島	島	崎	川	富	佐	賀	鄉	古	井	福	川	部	俣	年	佐	福	雲	篠
二五、四三〇	二六、二〇〇	二六、〇〇〇	二四、〇〇〇	二三、〇〇〇	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇	二五、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二四、〇〇〇	二三、五〇〇	二二、〇〇〇	二五、〇〇〇	二六、〇〇〇	二四、〇〇〇	二六、〇〇〇	二六、〇〇〇	二五、〇〇〇	二七、〇〇〇
一七、一八〇	二四、〇〇〇	一八、〇〇〇		一四、〇〇〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一八、〇〇〇	一七、〇〇〇	一七、〇〇〇	一六、〇〇〇	一二、〇〇〇	一四、五〇〇				一八、〇〇〇	一八、五〇〇	一五、〇〇〇	一七、〇〇〇
一八、〇〇〇		一六、〇〇〇			一八、〇〇〇	一九、〇〇〇				二〇、〇〇〇	一六、〇〇〇		二〇、〇〇〇			一六、〇〇〇	一六、〇〇〇		

備考

本調査ハ大正九年度豫算ニ依ル

△ハ有給ヲ示ス

四、町村立小學校教員月俸額表

町村名	種目	本科	正教員	専科	正教員	補助	准教員
萩			一八、〇〇〇		二〇、〇〇〇		一、〇
椿郷東分			二八、一四八		一七、四〇〇		二四、〇〇〇
山			二七、〇〇〇		一七、〇〇〇		一五、〇〇〇
三			二四、〇〇〇		一七、〇〇〇		一八、〇〇〇
明			二四、五〇〇		一六、〇〇〇		一、〇
佐々			二四、〇〇〇		一八、〇〇〇		一、〇
川			二五、〇〇〇		一五、〇〇〇		一、〇
合			二八、二三〇		二二、七〇〇		一八、二〇〇
見			二五、〇〇〇		二二、〇〇〇		一六、〇〇〇
六			二三、〇〇〇		一八、〇〇〇		一八、〇〇〇
田			二五、〇〇〇		二〇、〇〇〇		一七、〇〇〇
小			二五、〇〇〇		一九、〇〇〇		一六、〇〇〇
彌			三〇、〇〇〇		二二、〇〇〇		一八、〇〇〇
須			三〇、〇〇〇		二三、〇〇〇		二〇、〇〇〇
福			二三、〇〇〇		一八、〇〇〇		一七、〇〇〇

[illegible]

五、小學校兒童學力調查成績表

[illegible]

[illegible][illegible]

阿武郡報第四十六號

大正九年六月廿五日

◎大正六年十二月十九日第三回郵便物認可

◎每月一回二十五日發行 一部(代價金拾錢)

品名	支	出	先	那	海	外	輸	出	額
七、阿武郡輸出重要水產物表(二)								大正八年分	
計	七、三九七	二、五〇	〇、八六九	五、四九	一、七、七七				
鱈干	三、〇五〇	三、五八六	五、〇二五	三、九五					
須佐村									
山下富三郎									
河武部二八、〇八九									
廣島									
六〇〇									
一、二〇〇									
奈古村									
田村百合									
廣島									
六〇〇									
一、二〇〇									
田萬崎村									
廣島									
六〇〇									
一、二〇〇									
六島村									
廣島									
六〇〇									
一、二〇〇									
萩町									
長谷川虎藏									
神戶									
二〇、八〇〇									
一、五〇〇									
二、〇〇〇									
大坂									
一、〇〇〇									
二、〇〇〇									
下關									
一、〇〇〇									
二、〇〇〇									
郡內									
一〇、九〇〇									
二、八五									
松本龜太郎									
沖合									
四、八〇〇									
四、二〇〇									
大坂									
一、五〇〇									
二、〇〇〇									
郡內									
一〇、九〇〇									
二、八五									
松永勝二郎									
登城彌吉									
田萬崎村									
三見村									
三、〇五〇									
三、五八六									
五、〇二五									
三、九五									
計	七、三九七	二、五〇	〇、八六九	五、四九	一、七、七七				